

・「エゴグラム（簡易精神分析検査）」

父：他人や自分に対して案外きびしく、他人の目がいつも気になっているタイプである。子供と接する時は、子供の気持ちや感情を、あまり考えないで行動する傾向が強い。

母：世間の目が気になり、他人と協調していこうとする気持ちは強いが、自分自身には、きびしさが無い。子供のしつけには関心がうすく、放任するタイプである。

(5) 診断

- ① 0～3歳まで、ベビーホームにあづけられ、愛情に満ちた両親との接触がなく、生き生きと育っていない。
- ② 放任的な養育態度のため、子供の自我がゆがめられ、引込み思案なところが多く、耐性の弱い子供として育っている。
- ③ 両親が共働ぎのため、家で過ごすことが多く、社会経験の不足のまま成長したことが、人みしりを多くしている。
- ④ 友人が少なく、集団参加への技術が未熟で、集団への適応に苦労している。
- ⑤ 1年生の時・会話したことを友人に笑われた心のいたでが作用し、しゃべらないことで自分自身を防衛している。✕

✕ 以上のことから、親の養育態度のまずさが、自我を未成熟なものにし、集団の中で不安や緊張を感じ、緘黙状態を引き起こしていると考えられる。

(6) 指導方針

- ① 遊戯療法によって、学校生活に適応できるように援助する。
  - ・ 遊びを受容し、本人の興味を引き出しながら、行動の拡大化と会話の機会をつくる。
- ② 家庭の協力を求め社会性の育成に努める。
  - ア、家人との会話の機会を多くもつ(特に父親)
  - イ、子供への接し方を改善する。
    - ・ ほめたり励ましたりする。
    - ・ しゃべらないことへの圧力をさけ、安心して生活させる。
    - ・ 多くの子供と遊ばせる。
- ③ 学級内の人間関係の調整をはかり、集団活動への適応をはかる。(担任に依頼)
  - ア、教師との人間関係を深め、教師が子供と仲よくなる。
  - イ、対人関係になれさせ、小人数の子供と関係が結べるようにする。
  - ウ、話さなくてもできるような仕事を与え、毎日実行させる。
  - エ、声かけを多くし、簡単な言語表現(あいさつ)ができるようにする。
  - オ、係活動や日直の司会をさせ、人前で簡単な言語活動ができるようにさせる。

(7) 指導経過

回	カウンセリングによる親への働きかけ	遊戯療法による本人への働きかけ	担任教師の本人への働きかけ
① (3月)	○ 諸検査の結果から今後の養育態度について指導する。 ・ 父となじめない。	○ センターに来ることになれさせる。 ・ 名前や学年を聞くとかすかな声で答える。	○ 口をきくことを強要しないで本人と接するようにする。 ・ 表情が固く、話さない。 ・ 友人もいない。
② (4月) ⑦ (5月)	○ 父親の子供に接する態度を改善することが大事である。 ・ 父親が本人との接し方のまずさに気づくようになる。 ・ 父親になつくようになる。	○ 遊びを通して、本人とのラポート形成に努力する。 ・ 視線があうようになり、ラポートがとれてくる。 ・ ほめると笑みをうかべる。	○ 声かけを多くし、ラポートづくりに努める。 ・ 給食を食べない。 ・ 視線があうようになり、清掃や体育をするようになる。
	○ 手伝いをした時は、ほめて	○ 紙芝居に興味を持っている	○ 休み時間や放課後に、一緒